

■（69） 元日の新聞を読む楽しみ

2014. 1. 24

昨年暮れの新聞に、近所のすし店のチラシ広告が入っていました。「正月元旦より営業」と大きく書かれていたのが気になってしまいました。「新年は元日より営業」とか「1月は1日より開店」としたほうがよいと思ったからです。皆さんはどうでしょうか。

元日と元旦を混同している人は多いようです。元日は1年の最初の日、1月1日のことで、元日の朝のことを元旦といいます。旦は太陽が地平線から出たところを表した象形文字です。朝日新聞では、題字横の日付・曜日の下に「元日」と入っていました。

さて、この日の新聞を開く楽しみは3つあります。ひとつは、第1面のトップ記事は何か、です。多くの場合、調査報道に基づく特ダネのニュース記事か、時代の課題などに迫る大型の企画記事が掲載されます。朝日新聞は2011年が「教育 あしたへ」、12年は「安全委24人に8500万円」、13年「ビリオメディア」、今年は「教育 2014」で、12年は特ダネ記事、ほかは企画記事の連載第1回でした。

いまひとつの楽しみは、社説です。年頭にあって、この国の山積する諸問題にどう向き合うのか、かじ取りをどうするのかなどを論じる内容になることが多く、見出しを見るだけで、各紙のスタンスなどがわかります。読み比べてみることを勧めます。今年の朝日新聞は「政治と市民 にぎやかな民主主義に」でした。

最後は、多彩な別刷り特集です。今年、朝日新聞は第2部「テレビ・ラジオ」、第3部「サッカーW杯」、第4部「ソチ五輪」、第5部「東京五輪」、第6部「近未来体験」とありました。テレビ・ラジオとサッカーW杯、ソチ五輪については、どの新聞も取り上げています。朝日新聞の第6部では、近いうちに実現しそうな「自動で運転する車」などにスポットを当てていました。

元日の紙面はいずれも、この1年の生活や経済、政治や社会を考えるヒントとしたいものです。

なお、全国約120紙の元日紙面を集めた「2014年 新聞に見る 元旦紙面展」が東京・千代田区の日本プレスセンタービルと、横浜の日本新聞博物館で開かれています。いずれも1月31日（金）までです。ぜひご覧ください。

（鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問）